

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	神戸親和大学
設置者名	学校法人親和学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	総合文化学科	夜・通信	31	—	53	84	13	
	国際文化学科	夜・通信	23	6	53	82	13	
	心理学科	夜・通信			50	79	13	
発達教育学部	児童教育学科	夜・通信	31	—	210	241	13	
	心理学科	夜・通信			43	74	13	
	ジュニアスポーツ教育	夜・通信			14	45	13	
教育学部	児童教育学科	夜・通信	23	—	210	233	13	
	スポーツ教育学科	夜・通信			14	37	13	
教育学部（通信教育部）	児童教育学科	夜・通信	6	—	8	14	13	
（備考） ・2021年4月から発達教育学部心理学科を募集停止、文学部心理学科を新設。 ・2022年4月から発達教育学部を教育学部に名称変更。 ・通信教育部の福祉臨床学科は2019年4月から募集停止し、修業年限を超えて在籍する学生のみが在籍しているため、記載しない。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<b>【通学部】</b> <a href="https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Pky005">https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Pky005</a> シラバスを検索する際に、キーワードに【実務経験有】と入力することで実務経験のある教員を調べることができる。
--

【通信教育部】

[https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/news/post\\_115.php](https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/news/post_115.php)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神戸親和大学
設置者名	学校法人親和学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<a href="https://www.shinwa-gakuen.jp/gaiyo/sosiki_mei_riji.html">https://www.shinwa-gakuen.jp/gaiyo/sosiki_mei_riji.html</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	公益財団法人役員	2023. 5. 27 ～ 2026. 5. 26	財務担当
非常勤	営利社団法人役員	2023. 5. 27 ～ 2026. 5. 26	組織運営体制及び 財務のチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸親和大学
設置者名	学校法人親和学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><b>【通学部】</b>  通学部のシラバスの項目には、科目ナンバリングコード、授業の目的、到達目標、各回の授業計画、授業方法、予習・復習・宿題など(内容・時間)、評価方法、評価基準、課題へのフィードバック、教科書・参考書、授業・準備学習のアドバイスがあり、科目担当者が作成し、学生に示している。  作成過程としては、完成予定の前年度12月上旬にシラバスFDの開催、12月中旬に各科目担当教員に記載内容等についての説明及び作成依頼を文書で行っている。提出期限は、1月下旬としている。また、シラバスチェックを学長から各学科長及び教務委員に委嘱し、実施している。  ホームページでのシラバスの公開時期： 3月中旬</p> <p><b>【通信教育部】</b>  通信教育部の学修形態としては通信授業としての「テキスト履修科目」と、面接授業としての「スクーリング履修科目」がある。それぞれについて、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した「学習の手引き」(シラバス)を作成している。  作成過程としては、完成予定の前年度12月上旬に各科目担当教員に記載内容等についての説明及び作成依頼を文書で行っている。提出期限は、1月上旬としている。また、シラバスチェックを学長から各学科の通信教育部運営委員会委員に委嘱し、実施している。なお、「学習の手引き」(シラバス)については、通信教育部ホームページで9月下旬に公開している。</p>

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>【通学部】  <a href="https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Pkx005">https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Pkx005</a></p> <p>【通信教育部】  <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/text_curriculum.php">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/text_curriculum.php</a> 及び  <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/schooling_curriculum.php">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/schooling_curriculum.php</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>【通学部】  通学部では、シラバスに、評価方法（授業への取り組み：授業態度や意欲・発表等、確認テスト：小テスト・期末テスト等、レポート：小レポート・期末レポート等）の詳細や評価基準を明記のうえ、理解の深度や理解した内容の表現、説明等によって科目ごとに評価基準を設けるなどの例を示しており、その評価に基づき単位認定している。  そのシラバスは、すべて大学ホームページにて公開、明示している。</p> <p>【通信教育部】  通信教育部では単位修得に必要なレポート提出・合格、科目修了試験受験・合格及びスクーリング受講・合格（出席ポイントの充足とスクーリング試験等の合格）などの各要件を科目ごとに設定し、「学習の手引き」に記載し、定められた要件に合格することで単位認定を行っている。なお、各授業科目の成績評価の客観性や厳格性を担保するために、レポート、科目修了試験及びスクーリングについては、各授業科目それぞれに評価基準を設け、「学習の手引き」（シラバス）に明示している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【通学部】

通学部では、GPAを導入しており、履修規程にも以下のように規定している。  
また、この算出方法については学生要覧、ホームページでも公表している。  
成績の分布状況も学科・学年ごとに学内で把握している。

＜計算方法（小数点第3位四捨五入）＞

$$GPA = \frac{(\text{単位数} \times \text{ポイント}) \text{の合計}}{\text{履修登録総単位数}}$$

＜「成績通知書」及び「成績・単位修得証明書」の表記とポイント＞

判定	素点評価	成績評価	ポイント	成績評価基準
合格	100～90点	優	4.0	到達目標を達成し、優れた成果をおさめている
	89～85点		3.5	
	84～80点		3.0	
	79～75点	良	2.5	到達目標をおおむね達成している
	74～70点		2.0	
	69～65点	可	1.5	到達目標をある程度達成している
	64～60点		1.0	
不合格	59～0点	不可	0.0	到達目標を達成していない
合格	—	認定	—	他大学、留学制度等で修得した単位認定及びTOEIC、TOEFL iBT、実用英語検定による単位認定
				※GPAの対象としない
	—	合	—	知識および技能に係る学修により単位認定到達目標を達成している
				※GPAの対象としない
不合格	—		—	到達目標を達成していない

なお、グレード別クラスを設けている授業科目及び100点満点で評価しない授業科目は、GPA算出の対象としていない。

【通信教育部】

通信教育部では、GPAを導入しており、「学生要覧」に以下のように記載している。また、算出方法等については通信教育部ホームページでも公表している。

＜計算方法（小数点第3位四捨五入）＞

$$GPA = \frac{(\text{入学時から所属学年末までに修得したすべての科目で得たポイント(下表)} \times \text{当該科目の単位数の合計}) \text{の総和}}{\text{入学時から所属学年末までに学習可能な履修登録科目の単位数の合計}}$$

＜「成績証明書及び「履修状況表・成績通知書」の表記とポイント＞

点数	「成績証明書」の 表記	「履修状況表・成績通知書」の 表記 ＜グレード＞	ポイント
90～100	A	A＋	4.0
85～89		A	3.5
80～84		A－	3.0
75～79	B	B＋	2.5
70～74		B	2.0
65～69	C	C＋	1.5
60～64		C	1.0
0～59	(記載なし)	D	0.0

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

【通学部】

<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/campuslife/lecture/gpa.html>

【通信教育部】

<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/gpa.php>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【通学部】

通学部では以下の通りディプロマポリシーを制定し、その学位を授与するためのカリキュラムポリシーに則りカリキュラムを策定し科目を置いている。その上で、厳格な成績評価のうえ単位を認定し、卒業要件にあてはまる単位修得を判定した後に、教務委員会を経て教授会にて審議のうえ、学位を授与している。

また、学修成果の評価を行うため、アセスメントポリシーを定めている。

ディプロマポリシー

〔文学部〕

国際文化学科

国際文化学科では、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、(1) 日本語運用能力や、英語・中国語のコミュニケーション能力を高め、異文化間交流を積極的に行う力、(2) 国際的な視野にもとづく批判力、判断力、課題解決力を備え、社会が抱えるさまざまな問題に積極的に関わっていく力、(3) ICT を利用し、国際社会に発信し、新しい情報社会に参画する力、を身につけ、次の①～③に掲げる専門的な資質能力のうち少なくとも1つを修得した者に対し学位を授与します。

- ① 日本語についての正しい知識や運用能力を高め、日本文化の文化的・歴史的背景を、人文学の方法論を用いて判断・理解することで、人や文化に深い関心と理解を持ち、自ら課題を設定・探究することができる。
- ② 国際共通語としての英語の理解力と表現力を高め、国際文化への正しい理解と心の態度の醸成を通じて、地球規模の共生社会に主体的に参加できる。
- ③ ICT についての専門的な知識・技能と、情報活用能力や情報倫理を身につけるとともに人文系の幅広い知識を学び、ICT の視点をもって、社会に関わる諸課題に対して人間中心的なアプローチで問題解決に取り組むことができる。

心理学科

心理学科では、目指すべき人材像として、「心理学的な視点や手法を用いて様々な組織や企業の活動をサポートし発展に貢献できる人材、または心理臨床の知識と技術をもとに、自己及び人々の心身の健康と共感的で円滑な人間関係の構築に貢献できる人材」掲げる。このような人材を養成するため、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、次の①～④に掲げるねらいを達成した者に対し学位を授与する。

- ① 科学的、倫理的、合理的方法により人間を理解する力を身につけている。
- ② 心理学の研究手法ならびに、心理学全般の基礎知識を身につけている。
- ③ 心理学の学びを踏まえ、人々の価値観や信念、環境の多様性を理解し、様々な人々と関係性を構築する能力、連携・協働して社会で活躍できる能力を身につけている。
- ④ 心理学的な視点により、様々な組織、企業での活動を支える力（マーケティング力やリーダーシップなど）を身につけている。または、公認心理師や臨床心理士など心の専門家としての知識、技術、倫理観を身につけている。

〔教育学部〕

児童教育学科

児童教育学科では、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、子どもの教育と発達に関する専門的知識と技能を修得し、全人的な教

養に裏打ちされた専門性と豊かな実践力を身に付けた教育・保育人材として、下記の専門的な能力・資質を身に付けた者に対して学位を授与します。

- ① 使命感と責任感をもって人間愛にあふれた教育・保育を実践することができる。
- ② 教育・保育に関する専門的知識や技能に基づいて主体的・創造的に思考し、判断し、表現することができる。
- ③ 豊かな社会性や人間関係形成力を養い、他者と協働することができる。
- ④ 教育・保育に関する国際的な視野をもって社会に貢献し、地域に根ざして活動することができる。

#### スポーツ教育学科

スポーツ教育学科では、本学の課程を修め、卒業要件と必修等の条件を満たしたうえで、現代社会におけるスポーツの諸問題に対応する専門的知識と技能を有し、次世代を担う力を身につけ、次の①～③に掲げる専門的な資質能力のうち少なくとも一つを修得した者に対して学位を授与します。

- ① 学校教育、学校体育・スポーツについての専門的知識を有し、学校等での臨地調査・実習を通して、健康・スポーツに関わる教育活動を、企画・実践・探求することができる。
- ② スポーツ場面におけるパフォーマンス力の向上や心身の健康づくりに関する専門的知識を有し、学校、スポーツクラブ、福祉施設等の訪問、調査、ボランティアを通して、スポーツの指導を、企画・実践・探求することができる。
- ③ スポーツクラブ等の組織経営及び地域スポーツの活性化に関する専門的知識を有し、地域の健康・スポーツ関連機関・施設等の訪問、調査、ボランティアを通して、課題を発見するとともにその解決の手立てを企画・実践・探求することができる。

#### 【通信教育部】

通信教育部は「主として通信教育の方法による教育を受ける機会の拡充と、総合的判断力を持ち主体的に社会に対応できる人間を育成すること」を目標とし、教育課程におけるテキスト並びにスクーリングによる学修と学外での実習、さらには課程外における実践的活動とを総合的に結びつけ、課題解決力や企画構成力を涵養し、コミュニケーション力を育むことにより、教育理念の実現をめざす。

教育学部の教育目標は、「豊かな教養と専門的知識をもち、他の人々と協力して人間の発達と教育にかかる課題に取り組み、その解決に持続して努力できる人材、さらにそのような協働の活動においてイニシアティブのとれる人材を育成する。」であり、当該目標に照らして各学科において定められたねらいを達成することを課程修了の要件とする。

また、学位は、各学科の教育目標を達成するために設定された科目を履修し、必要単位を修得した者に授与する。

#### 〔教育学部〕

##### 児童教育学科

児童教育学科では、本学の課程を修めるために定める必修科目、選択必修科目を含めて必要となる単位数を修得し、卒業要件を満たしたうえで、本学科が掲げる教育目標である「子どもの教育と発達に関する専門的知識と技能をもった実践力のあつた人材を育成する。」に準拠して、次に挙げる専門的な資質能力を身に付けた者に対し学位を授与する。

- ① 使命感と責任感をもって人間愛にあふれた教育・保育を実践することができる。
- ② 教育・保育に関する専門的知識や技能に基づいて主体的・創造的に思考、判断し、表現することができる。

<p>③豊かな社会性や人間関係形成力をもち、他者と協働することができる。</p> <p>④教育・保育に関する国際的な視野をもって社会に貢献し、地域に根ざして活動することができる。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>【通学部】  <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-05.html?id=anchor01">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-05.html?id=anchor01</a></p> <p>【通信教育部】  <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies</a></p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸親和大学
設置者名	学校法人親和学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html">https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html">https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html</a>
財産目録	<a href="https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html">https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html</a>
事業報告書	<a href="https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html">https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html">https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/k_skg.html</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画書 対象年度: 2022年度)
公表方法: <a href="https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/y_jks.html">https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r04/y_jks.html</a>
中長期計画(名称: 対象年度: )
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/value/">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/value/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/value/">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/value/</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-01.html">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-01.html</a> ) (概要) 豊かな教養と専門知識をもち、多様な価値観を持つ人々と共生できる柔軟な考え方と広い視野を持つ人材、様々な社会の文化や個人が抱える課題の解決に貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-05.html">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-05.html</a> ) (概要) 本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たしたうえで、各学科の専門的知識や技能を修得した者に対して学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-10.html?id=anchor01">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-10.html?id=anchor01</a> ) (概要) 卒業認定及び学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/policy/">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/policy/</a> ) (概要) 本学での学びにおいて習得する基礎的・専門的知識を活かして社会に貢献したいという強い意志があり、その専門的知識を学ぶ前提として、しっかりと基礎学力を身につけている学生を求める

学部等名 教育学部
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-01.html">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-01.html</a> ) (概要) 豊かな教養と専門的知識をもち、他の人々と協力して人間の発達と教育にかかる課題に取り組み、その解決に持続して努力できる人材、さらにそのような協働の活動においてイニシアティブのとれる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針

(公表方法： <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-05.html">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-05.html</a> )
<p>(概要)</p> <p>本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たしたうえで、各学科の専門的知識や技能を修得した者に対して学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-10.html">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-10.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業認定及び学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/policy/">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/policy/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学での学びにおいて習得する基礎的・専門的知識を活かして社会に貢献したいという強い意志があり、その専門的知識を学ぶ前提として、しっかりと基礎学力を身につけている学生を求める。</p>

学部等名 通信教育部教育学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-01.html">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-01.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>豊かな教養と専門的知識をもち、他の人々と協力して人間の発達と教育にかかる課題に取り組み、その解決に持続して努力できる人材、さらにそのような協働の活動においてイニシアティブのとれる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たしたうえで、各学科の専門的知識や技能を修得した者に対して学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies</a>）</p>

<p>(概要)</p> <p>通信教育部では、卒業認定及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目群及び専門教育科目群を体系的に編成し、通信教育独自の学習方法であるテキスト履修科目と集中講義形式で開講するスクーリング履修科目との適切なバランスの下に、講義、演習、実技、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：  <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies</a></p>
<p>(概要)</p> <p>通信教育部は、「通信教育の方法による教育を受ける機会の拡充と、総合的判断力を持ち主体的に社会に対応できる人間を育成すること」を目的としており、印刷教材等による授業であるテキスト履修科目では自主的自律的に学習すること、面接授業であるスクーリング履修科目では積極的能動的に受講することを求める。</p> <p>そのため、通信教育部では、児童教育を学ぼうとする意欲があり、同時に、以下の点を満たしている人に入学してほしいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①専門的知識、技能を学ぶ前提として、入学後の学びに必要となる基礎的教養を幅広くしっかりと身につけている人。</li> <li>②学習と生活とのバランスを取り、持続的に学ぼうとする強い意志がある人。</li> <li>③他者を尊重、理解し協同しようという姿勢を持っている人。</li> </ul>

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-02.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3 人	—					3 人
文学部	—	15 人	3 人	人	人	人	18 人
教育学部	—	35 人	9 人	3 人	1 人	人	48 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		190 人					190 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/gyoseki/japanese/index.html">https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/gyoseki/japanese/index.html</a>					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、学生にとってより良い学びを実現できるよう、活発的に F D 活動を実施している。</p> <p>&lt; 2022 年度 F D 活動内容 &gt;</p> <p>○公開授業</p> <p>「対面授業における PC の活用」をメインテーマに授業方法などを参考に選定した授業を教員間で参観した。その後の全体研修会では、学生対象に実施した PC 必携化に関するアンケート結果を共有した後、学生がより PC を学修に活用していくために今後必要な方策についてグループディスカッションをおこなった。</p> <p>○F D ・S D 研修会</p> <p>「共学化に伴う課題とその解決策を考える」をテーマに外部講師を招き、講演会を実施した。</p> <p>○学科別 F D 活動</p> <p>学科別にテーマを決め、F D 活動を実施した。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

[illegible]

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名				
	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	50 人 (100%)	1 人 ( 2.0%)	39 人 ( 78.0%)	10 人 ( 20.0%)
発達教育学部	304 人 (100%)	10 人 ( 3.3%)	275 人 ( 90.5%)	19 人 ( 6.3%)
合計	354 人 (100%)	11 人 ( 3.1%)	314 人 ( 88.7%)	29 人 ( 8.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
幼稚園、保育所(園)、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、公務員、情報通信業、小売業、金融業、生活関連サービス業、医療、福祉、ほか				
(備考)				
本学では、教職及び保育士養成課程を有し、免許・資格取得の支援に力を入れており、採用につなげている。また、民間企業への就職希望者には、1年次からキャリア教育を行い、本人の希望が叶うようきめ細かく支援している。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	56 人 (100%)	47 人 ( 83.9%)	0 人 ( 0%)	6 人 ( 10.7%)	0 人 ( 0%)
発達教育学部	317 人 (100%)	299 人 ( 94.3%)	4 人 ( 1.3%)	13 人 ( 4.1%)	4 人 ( 1.3%)
合計	373 人 (100%)	346 人 ( 92.8%)	4 人 ( 1.1%)	19 人 ( 5.1%)	4 人 ( 1.1%)
（備考）編入生は含まず。その他は、休学歴があり在学期間不足の者。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>（概要）</p> <p><b>【通学部】</b>  通学部のシラバスの項目には、授業の目的、到達目標、各回の授業計画、授業方法、予習・復習・宿題など（内容・時間）、評価方法、評価基準、課題へのフィードバック、教科書・参考書、授業・準備学習のアドバイスがあり、科目担当者が作成し、学生に示している。</p> <p><b>【通信教育部】</b>  通信教育部の学修形態としては通信授業としての「テキスト履修科目」と、面接授業としての「スクーリング履修科目」がある。それぞれについて、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した「学習の手引き」（シラバス）を作成している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>（概要）</p> <p><b>【通学部】</b>  通学部のシラバスには、評価方法や評価基準を明記し、理解の深度や理解した内容の表現、説明等によって評価基準を設けるなどの例を示して評価するよう設定し、その評価に基づき単位認定している。  認定した単位の卒業要件を判定した後に、教務委員会を経て教授会にて審議のうえ、学位を授与している。</p> <p><b>【通信教育部】</b>  通信教育部では単位修得に必要なレポート提出・合格、科目修了試験受験・合格及びスクーリング受講・合格（出席ポイントの充足とスクーリング試験等の合格）などの各要件を科目ごとに設定し、「学習の手引き」（シラバス）に記載し、定められた要件に合格することで単位認定を行っている。なお、各授業科目の成績評価の客観性や厳格性を担保するために、レポート、科目修了試験及びスクーリングについては、各授業科目それぞれに評価基準を設け、「学習の手引き」（シラバス）に明示している。</p>
---

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国際文化学科	124 単位	⑦・無	50 単位未満/年
	心理学科	124 単位	⑦・無	50 単位未満/年
発達教育学部	児童教育学科	124 単位	⑦・無	50 単位未満/年
	心理学科	124 単位	⑦・無	50 単位未満/年
	ジュニアスポーツ教育学科	124 単位	⑦・無	50 単位未満/年
教育学部	児童教育学科	124 単位	⑦・無	50 単位未満/年
	スポーツ教育学科	124 単位	⑦・無	50 単位未満/年
教育学部 (通信教育課程)	児童教育学科	124 単位	⑦・無	上限設定なし 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : <b>【通学部】</b> <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/campuslife/lecture/gpa.html">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/campuslife/lecture/gpa.html</a> <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/regulations/">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/regulations/</a> ※以下、履修規程に記載。 第 4 条 年間の履修登録単位数は、各年次 50 単位未満とする。 ただし、単位互換（一部を除く）、通信プログラム及び卒業に必要な単位数に含めることができない履修単位は、その対象外とする。 2 前項にかかわらず、直近の年間 GPA が、3.2 以上の者は、1 年間の履修単位の上限を 56 単位未満とする。 第 22 条 当該年度の GPA が 1.0 未満の学生については、学修意欲の確認、履修計画の作成 等、指導教員による指導を行う。 2 前項による指導を行っても、学修意欲等の改善が認められない者には退学を勧告することがある。  <b>【通信教育部】</b> <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/gpa.php">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/gpa.php</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : <b>【通学部】</b> <a href="https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/questionnaire.html">https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/questionnaire.html</a>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-06.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	国際文化学科	870,000 円  過年度のみ 800,000 円	230,000 円	300,000 円  過年度生のみ 280,000 円	その他は、施設設備 整備費・教育充実費
	心理学科 (1・2・3 年)			1・2・3 年生 300,000 円	
教育学部  ※2022 年 度から名称 変更	心理学科 (4 年生以 上)			4 年生 300,000 円 過年度生のみ 280,000 円	
	児童教育学 科			310,000 円	
	スポーツ教育学 科			380,000 円  過年度生のみ 410,000 円	
教育学部 (通信教育 部)	児童教育学 科	140,000 円	30,000 円	15,000 円	その他は、教育充実費
※2022 年 度から名称 変更	福祉臨床学 科	140,000 円	(※1)30,000 円	15,000 円	

※1 通信教育部 福祉臨床学科は 2019 年 4 月から募集停止につき 2019 年度以降入学金なし。

※通信教育部の資格登録料（免許・資格取得希望者入学時 50,000 円）、スクーリング受講料（年額約 60,000 円）、実習委託料（実費：約 30,000 円）は上記に含まない。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p><b>【奨学金】</b></p> <p>学生への経済的支援としては、経済的援助と学習奨励の面から、多種多様な制度で対応している。これら奨学制度については、ホームページや学生要覧及びポータルサイト等に掲載し、常時紹介している。新入生には、入学手続き書類やガイダンス等でも説明し、周知を図っている。</p> <p>また、通信教育部の学生についても、日本学生支援機構の奨学金制度を学生要覧等に掲載し、周知を図っている。</p> <p><b>【学生寮】</b></p> <p>学生寮として玉結寮、新玉結寮及び国際交流寮及びスポーツ寮（借上げアパート）を設置している。各寮とも大学から徒歩圏内に位置し、120 人の学生が生活をしている。スポーツ寮以外の寮の入口はオートロック式で、管理人が 24 時間常駐、防犯カメラも設置している。食事は、講義期間中の平日の朝食と夕食を提供している。食堂、談話室など学生が交流する場もあり、快適に過ごせる環境が整っている。</p> <p>また、通信教育部の学生については、スクーリング期間中の宿泊先（ホテル等）の紹介窓口を案内している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>【就職支援】</p> <p>正課教育と並行して、自己のキャリアに対する意識づけを図るガイダンスや行事・支援講座等を実施している。全体の就職支援に加え個別支援も重要視しており、キャリアカウンセラーを配置し、学生が主体的に進路選択できるよう学生の個々の状況に応じてきめ細かく対応している。さらに、発達障がい傾向の学生については、学生相談室（カウンセラーが月～金常駐）と連携しサポートを図っている。</p> <p>進路支援体制としては、キャリアセンターとゼミ担当教員が中心となって学生一人ひとりを支援している。3年次からは、就職活動に必要な一般知識やマナーを身につけることを目的に支援プログラムを展開している。</p> <p>また、通信教育部の学生についても、教員採用試験の対策講座等を開講している。</p> <p>【インターンシップ】</p> <p>将来めざす職業や関連する職業の現場を経験することで、自らの専攻や研究に対する理解を深めると共に適性を知ることにより役立て、志望業種・職種の決定や就業後の適応力を身に付けることを目的に2年次より「インターンシップA・B」を開講している。</p> <p>【キャリア教育】</p> <p>共通教育の一環として、初年次から「自分自身をより深く知ることで、自己の将来やキャリアを展望する」キャリア形成科目を開講。「ワーク&amp;ライフデザインⅠ・Ⅱ」を1・2年次の必修科目とし、仕事や生活に対する価値観や将来の目標を明確にしていく。</p> <p>また、将来に向けて行動するために、「プロジェクトベ이스トラーニング基礎A・B」を1・2年次に開講し、実社会や企業等における課題解決への向き合い方を実践的に学べるようにしている。</p> <p>さらに、教員・公務員・就職試験等に必要な一般教養について学習するための「職業能力基礎A・B」を2年次に開講。一般企業への就職を視野に入れたワークキャリアの形成のために、2年次に「キャリアデザインⅠ」、3年次に「キャリアデザインⅡ」を開講し、社会で必要な力が身に付くように科目を配置している。</p> <p>学生自身がオンキャンパスでの学修と、オフキャンパスでの学びを相互に関連付けながら、人生のデザイン設計能力を高めるために、一定の条件下で展開される社会貢献等の諸活動を、「実践教育活動A・B・C・D」として単位認定できるように科目を設置している。</p>	<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>毎年、学校保健安全法に基づき定期健康診断を全学生対象として実施している。なお、健康診断で精密検査が必要と診断された学生については、内科校医が面談し検査の必要性を説明している。また、健康診断結果は全員に学生ポータルサイトにて個別に配信している。</p> <p>日常の健康管理については、看護師と週一回来学する内科校医が健康相談に携わり必要に応じて専門医への紹介も行っている。</p> <p>学生相談体制としては、学生相談室において臨床心理士が週に3回、精神科校医が月二回来室し、適切に相談・助言を行うため学生相談室規程に則り、学生の個人的な問題について対応している。さらに、学生相談委員会に心理相談を円滑に処理・運営するため学生相談室長を中心とした専門部会を設置し、月一回会議を行っている。</p>
--	--

## ⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F128310108776
学校名	神戸親和大学
設置者名	学校法人親和学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		142人	134人	144人
内 訳	第Ⅰ区分	78人	84人	
	第Ⅱ区分	48人	35人	
	第Ⅲ区分	16人	15人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				145人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	15人		
計	16人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	9人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。